

鎌ヶ谷市

郷土資料館

だより

第76号

目次

○令和8年度新資料展を開催……………1

○郷土資料館この一品③……………2・3

○第32回ミニ展示開催中(9/27まで)……………2

○収蔵庫に眠る宝もの②……………4

令和8年度新資料展

新発見! 鎌ヶ谷のたからもの

文化財に親じもう

毎年11月1日から7日は「文化財保護強調週間」です。この期間中、文化財に親しむことを目的として全国的に様々な行事が催されています。

鎌ヶ谷市でもこれに合わせ、令和7年度に市が発掘・調査した埋蔵文化財と、郷土資料館が発見、調査・整理、また寄贈いただいた歴史・民俗資料の主なものを展示する「新資料展」を開催します。いずれの資料も、今回初めて公開するものばかりです。ぜひ、新しく仲間入りした「鎌ヶ谷のたからもの」をご覧ください。

展示内容

◇埋蔵文化財

令和7年度中に発掘調査を行った、「新山No.2遺跡、下総小金中野牧跡（野馬除土手、北中沢二丁目所在）他」の調査成果を主に展示します。

◇歴史・民俗資料

市内で発見、調査・整理、また寄贈・寄託された、主に江戸時代末から昭和時代の歴史資料、明治時代前期の襖下張り文書、民俗資料、郷土資料館に移管された市歴史公文書、市域を撮影した写真のパネルなどを展示します。

展示期間

10月24日(土)～9年1月24日(日)
ただし、毎週月曜日、11月4日(水)、
12月29日(火)～1月3日(日)は休館

開館時間

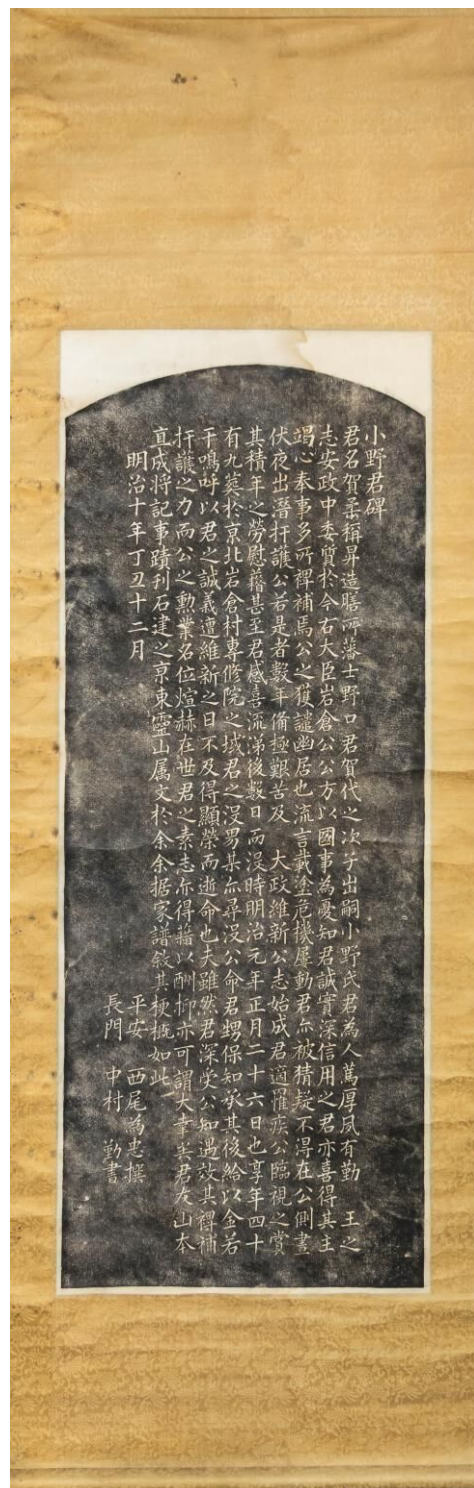
9時～17時(入館は16時45分まで)

会場

郷土資料館2階展示室ほか



軍隊手牒(昭和12～18年)



小野賀柔昇造顕彰碑拓本掛け軸

(明治10年)

第32回ミニ展示開催中(9/27まで) 「大集合！鎌ケ谷の文化財」

現在、郷土資料館 2 階の展示室では、第 32 回ミニ展示「大集合！鎌ケ谷の文化財」を開催中です。

今年は市指定文化財「鎌ケ谷大仏」が建立されてから 250 年、国登録有形文化財(建造物)「澁谷家住宅主屋」が建築されてから 200 年に当たります。また、三橋家旧蔵「小金牧大絵図」が市指定文化財に指定され、来年 2 月には「下総小金中野牧跡」が国史跡の指定を受けてから 20



興味深い展示物の数々

年を迎えるなど、市内の文化財にとって節目の年となります。

そこでこのミニ展示では、市内の文化財を特集した展示を開催しています。普段は複製を展示している「小金牧大絵図」や「渋谷総司書簡」の原本も展示していますので、ぜひこの機会にご覧ください。

期 間 9 月 27 日(日)まで

休館日 9 月 21 日を除く毎週月曜日、9 月 24 日(木)

時 間 9 時～17 時(入館は 16 時 45 分まで)

学芸員講座Ⅱを開催
『分水界がもたらした歴史文化』
～近年の発掘調査成果を中心に～

鎌ケ谷市は台地に河川が樹枝状に入り込んでおり、北は手賀沼、南は東京湾に河川が流れて

郷土資料館 この一品 34 せんば 千歯扱き

現在、鎌ケ谷市内では生業としての稲作は行われていませんが、かつては市域北部の大津川流域(北部小前から北部公民館先)や南部の中沢川・谷地川流域(貝柄山公園から第四中入口信号を経て市川霊園方面)、また、軽井沢の「金山落し」(「栗野の森」東側からクリーンセンター付近)の低地で行われていました。昔の風景として、これらの田んぼの写真を見たことがある方がいるかもしれません。田植えは 6 月ごろ、人手不足をまかなうため

共同で行ったようです。夏場は水回りの管理や草取り、秋には稲の刈り入れを行い、刈り取った稲は、脱穀・精米をして出荷しました。

今回紹介する「千歯扱き」は、刈り取った稲穂から^{もみ}粃を取る脱穀の道具です。江戸時代に考案されたもので、稲穂を歯の間に挟み、手前に引くと穂から粃が取れます。この名称は多くの歯(千の歯)



います。台地中央部分は分水界となっており、その地形的特徴から、南北で異なる文化圏が展開していました。今回の学芸員講座Ⅱでは、そのような地形的特徴を踏まえつつ、近年の発掘調査の成果を説明します。

日時 11月8日(日) 14時～16時

場所 図書館

定員 50人(申込先着順)

講師 市学芸員

その他 まなびい 100対象

申し込み 10月8日(木)9時以降

に申し込みフォーム、または、
郷土資料館☎445・1030、
もしくは窓口へ



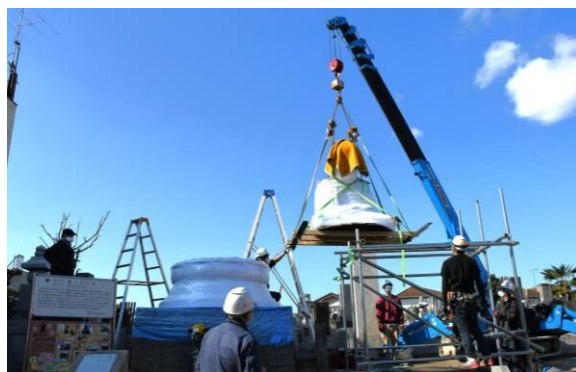
申し込みフォーム

歴史講演会Ⅰを開催

「鎌ヶ谷大仏建立の技に迫る」

建立から250年を迎え、今なお木下街道を行き交う人々を見守り続ける鎌ヶ谷大仏。今回の歴史講演会Ⅰでは、「鎌ヶ谷大仏がやってきた日～ハイスペックな内部の組み立ての技を見る～」と題してその建立の技に迫ります。

日時 9月19日(土)14時～16時



台座からクレーンで移動



下からのぞいたところ
(左上が正面)

鎌ヶ谷大仏の調査・修復作業(R3.11)

場所 中央公民館学習室1

定員 60人(申込先着順)

講師 富山大学客員教授の三船温尚さん

その他 まなびい 100対象

申し込み 申し込みフォーム、

または、郷土資料館☎445・1030、
もしくは窓口へ



申し込みフォーム

があり、一度にたくさんの稲(千把^{せんば})を抜くことに由来しています。



千歯扱き(稲穂を歯の間に挟み手前に引きます)

展示資料は、長さ60.5cm、7.5×4.5cm角の木材に先を尖らせた歯(長さ29.5cm、幅1.5cm)25本を鋸^{のこ}で打ち付け、それを上から木材で補強し、この面を下にして使用しました。台から出ている歯の長さは22cm、歯の間隔は先端で約1cmありますが、先端から6cmほどで数mmの間隔となり、この隙間に稲穂を挟みました。台には「若狭稲扱合資会社製」「廿五年※鎌ヶ谷湯浅勘七」の墨書きがあります。これは製作会社及び所有者と思われます。脚部は後から展示用に補ったものです。

これらの「千歯扱き」は大正末期になると、その役割は足踏み式脱穀機に代わっていきました。〈※明治25年(1892)のことと推定されます。〉

収蔵庫に眠る宝もの② 江戸時代の年号が 墨書されている米びつ

郷土資料館では、多種多様な資料を保存しています。それらの中でも、市民の皆さんから特に多数をご寄贈・ご寄託いただいているのが歴史資料と民俗資料です。それらのうち後者は、資料館内外の収蔵スペースで保存措置をほどこした上で保管しています。

さて、民俗資料は、有形と無形に分類できませんが、有形民俗資料の大半を占めるのが民具です。民具は、「民衆が日常生活の必要から製作・使用してきた伝承的な器具・造形物」（『日本民俗事典』）と定義されます。そのため、かつての一般家庭では、普通に使用されてきたものでしたが、特に高度経済成長期以降の生活・生産様式の変化により利用されることがなくなり、蔵や物置などで埃をかぶっていたものもありました。

郷土資料館では、開館以前の社会教育課時代から引き続いて、多くの民具を収集してきました。その中の1点に、佐津間の旧家であつて使用されていた米びつがあります。米びつというのは、ご飯として炊くための米を入れておく容器のことで、現代ではプラスチック製やステンレス製のものもありますが、以前は木製のものが大半でした。

この米びつは、半世紀近く前の昭和 53 年（1978）、江戸時代に佐津間村の名主をつとめた澁谷重右衛門家（国登録有形文化財「澁谷家住宅」の旧蔵家）の分家である重兵衛家から、市教育委員会へご寄贈いただきました。ちなみに、「重右衛門」や「重兵衛」というのは、江戸時代の当主の世襲名で、ともに屋号として近・



墨書のある米びつ

現代にも使用されました。

なお、米びつは資料館で複数保管していますが、この資料が貴重なのは、蓋の裏に年代が記されている点です。「天保十己亥歳 正月吉祥日」と墨書されていますので、天保 10 年（1839）のものであることがわかります。「己亥」は「つちのとい」もしくは「きがいの」と読み、この年の干支です。

さて、本家である重右衛門家に残された膨大な歴史資料（澁谷家旧蔵文書）から、初代重兵衛は名主重右衛門の弟で寛政 12 年（1800）の生まれです。そして、文政 8 年（1825）ころ分家しました。したがって、この米びつは分家初代の重兵衛が 40 歳ころに作成もしくは購入し、代々使用されてきたものと推定できます。

このように、民具に文字情報が記されたり、刻まれたりしていることがあります。その場合には、歴史資料の性格を持ち合わせるようになります。また、民具は全く同じものが進歩もなく、長い間使用されるのではなく、使いやすいように改良が加えられるのが普通です。そのため、同じ種類のものであっても、可能な限り複数を収集し、比較・検討することが重要となります。

鎌ヶ谷市郷土資料館だより 第 76 号 令和 8 年 9 月 1 日発行 編集・発行：鎌ヶ谷市郷土資料館

住 所：〒273-0124 鎌ヶ谷市中央 1-8-31 電 話：047-445-1030

メー ル：kyodo@city.kamagaya.chiba.jp F A X：047-443-4502

ウェブサイト：http://www.city.kamagaya.chiba.jp/sisetsu/kyoudoshiryokan/index.html

